

小学校教師による小4理科・「総合的な学習の時間」の教材研究—1枚の写真を通して

知ろう。学ぼう。校庭の公園から…

作成：長瀬雅一（ながせ まさかず／北海道函館市立駒場小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*



▲こまどり公園の様子

語り：「この写真の場所はどこでしょう？ わかりますか？ これは、みんなの近くにある公園、校庭のはじにある『こまどり公園』を写したものです。休み時間など、みんなで遊んでいる場所ですね。こまどり公園と呼ぶように、たくさんの鳥類が来ています。鳥たちの様子を見てみると、木の実、虫などいろいろな物を食べています。鳥の種類は、10種類以上になります。公園に来た鳥たちが、どんなことをしているか、観察して記録をとることもよいと思います。

また、公園には、鳥たちがやって来る木がたくさんあります。公園の樹木は10種類以上になります。ポプラ、クリなどの木の高さは、10メー

トル以上になっています。ほかにも公園には、たくさんの木があります。まっすぐ伸びている木。木の真ん中に穴が開いていて、鳥たちの巣になりそうな木。木の根元が大きく分かれていてどっしりと大きな木。オンコやクリなどのように食べられる実のなる木。冬でも葉がついている木。秋には葉を落としてしまう木。それぞれの木には、どんな特徴があるのかを調べてみてください。そうすると、鳥と木、虫と木など、自然の中のいろいろなつながりなどもわかってきます。

1年間、この公園を観察してみると、今まで知らなかったことが、たくさん発見できると思います。ぜひ、観察を続けてみましょう。」

意図（長瀬）：学校の校庭は、児童にとって身近に樹木や自然を感じることのできる空間である。身近な木や森を見て感じることや想像をふくらませることは、自分たちの生活にはないもので、このことから森の不思議（未知）さや自然界の連鎖を知ることができる。4年生の理科の内容としても、十分に考えさせることのできる教材、単元であると考え。

寸評（山下）：平成10年版学習指導要領4年理科の「植物」の扱いでは、「夏生一年生植物のみを扱うこと」という制約が示されていた。しかし、新版（平成20年版）では、その制約が取り外され、「身近で季節によって成長に伴う変化が明確な植物」（解説）となった。今後、校庭の樹木は、理科の教材としても積極的に活用されることを期待したい。そして、校庭の樹木から地域や日本の森林へと子どもたちの視野を広げたい。

*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）